



南島原市中学生弁論大会受賞者

**優秀賞**  
 口之津中学校 3年  
 原 口 拓 磨 さん  
**演題**  
 止まらない？  
 高齢化社会に生きる現代において、病気などの知識をつける必要があります。核家族化が進む中、お年寄りとの交流を行っていきましょう。

**優秀賞**  
 南有馬中学校 2年  
 本 多 亮 麻 さん  
**演題**  
 『命』  
 親とは、子どもが生まれてきてくれただけでうれしいものです。誰も悲しまないという「死」はありません。たった一つの『命』を大切に。

**最優秀賞**  
 有家中学校 3年  
 荒 木 佑 公 さん  
**演題**  
 生まれてきてよかった  
 人はいっばいの愛情の中で生まれてきたはず。これからも家族を大切に、周囲の人のために一生懸命生きていきます。

**努力賞**  
 口之津中学校 2年  
 定 方 恵 未 さん  
**演題**  
 身近にある恐怖  
 読み直すことのない何気ない悪口メール、時として殺人につながることも。『ありがとう』や『ごめん』など、大切な事を伝えるときは、直接目を見て。

**努力賞**  
 深江中学校 3年  
 福 島 香 織 さん  
**演題**  
 かけがえない命と今  
 受け継がれてきた命を大切にするため、今を精一杯頑張って生きていきたい。

**優秀賞**  
 布津中学校 3年  
 有 村 美 佐 紀 さん  
**演題**  
 笑顔輝く瞬間(とき)  
 周囲に流され、いっしょになって悪口を言っていたことを深く後悔しました。いじめは勇気を持ってやめさせ、日本からいじめという言葉をなくしたい。

**努力賞**  
 南有馬中学校 3年  
 山 口 郁 子 さん  
**演題**  
 Good by 弱さ  
 『やさしいことが強いよ』という言葉が小学校の先生からプレゼント。やさしさがあれば、人の気持ちを理解できるはず。

**努力賞**  
 北有馬中学校 3年  
 小 松 倫 子 さん  
**演題**  
 おばあちゃん、ありがとう  
 病気のおばあちゃんが最後の最後まで、暗い表情もせず一生懸命生き続けたその様子に感動。命を大切に・・・。

**努力賞**  
 加津佐中学校 3年  
 荒 木 文 乃 さん  
**演題**  
 心の松葉杖  
 体育大会で、バトンタッチに失敗し落ち込んでいたとき『大丈夫？』の一言。仲間の優しい一言の大切さがわかりました。友達の心の松葉杖になりたい。

**努力賞**  
 有家中学校 3年  
 福 永 絵 理 さん  
**演題**  
 本当の優しさ  
 障害をもった友達を、みんなと一緒に避けるようになった。しかし、自分が転校するときに『ありがとう』といわれ、自分の過ちに気づきました。

**努力賞**  
 布津中学校 3年  
 川 島 貴 弥 さん  
**演題**  
 明るい未来へ  
 悪いこととわかっていて、人はなぜ人を殺してしまうのか。自分の周りから、そんな考えを変えていきたい。

**努力賞**  
 西有家中学校 3年  
 一 瀬 薫 さん  
**演題**  
 親子で会話を  
 家族の何気ない日常会話が、とても大切です。親子の会話は、悲しい犯罪を防ぐことにもつながります。

**努力賞**  
 西有家中学校 3年  
 相 川 知 美 さん  
**演題**  
 活気あふれる市(まち)づくり  
 体育大会でいっしょうけんめいがんばった私達を、地域の人はきちんと見てくれた。地方には、都会にないよさがあり、若い人は残るべきではないか。

**努力賞**  
 北有馬中学校 3年  
 渡 邊 唯 さん  
**演題**  
 思いやりを忘れず  
 大阪から転校してきた自分に、地域の人やさしく声をかけてくれた。思いやりを忘れず、人の心をあたたくしてあげたい。

**努力賞**  
 加津佐中学校 3年  
 山 本 紗 織 さん  
**演題**  
 人として大切なこと  
 連携してボールを返す、バレーボールを通して、心のつながりを意識。思いやりは、必ずどこかで形となって現れる。

市全体 暮らしやすい社会の実現に向けて  
**南島原市中学生弁論大会**

7月25日(火)、ありえコレジヨホールで、第56回「社会を明るくする運動」南島原市中学生弁論大会が開催されました。これは、犯罪防止と罪を犯した人達の更正についての理解を深め、それぞれの立場において犯罪のない明るい社会を築こうとする「社会を明るくする運動」の一環で行われました。大会では市内の各中学校から15名の弁士が、それぞれの想いを堂々と発表し、会場に集まった聴衆は迫力のある弁士の発表に耳を傾けていました。

発表者の演題は、時代に即した鋭いもので、感性豊かな中学生ならではの言葉が溢れていました。審査委員会の菅教育長は「家族のありがたさがよく感じられた」ことや「自分の体験がうまくまとめられていた」こと、また、「これだけの聴衆の中で堂々と意見が述べられたことは今後の財産になるでしょう」と講評を述べました。

なお7月31日(月)、「第56回社会を明るくする運動中学・高校生県弁論大会」が長崎市内で行われ、南島原市代表の荒木佑公さんが、中学生の部で見事優秀賞を受賞しました。



▲会場も真剣な表情



▲迫力のある発表

有家 夏の夜の思い出

**ありえ温泉神社夏越祭**



▲茅(ち)の輪をくぐり無病息災を祈る来場者

7月29日(土)・30日(日)有家町温泉神社で第34回ありえ温泉神社夏越祭が開催されました。

両日とも、天候にも恵まれた多くの来場者があり、参道や境内では、露店の賑わいで祭ムードをさらに引き立てました。

また29日(日)には、有家町商工会青年部が開催する舞台イベントもあり、各種抽選会や有家太鼓・布津無双太鼓の演奏、第8代ありえ町PRレディーの決定、マジックショーなどと充実した内容で子供達から大人まで全ての人にワクワクする気持ちや、どこか懐かしいような気持ちを感じる「夏の思い出に残る一夜」になったようです。



▲第8代ありえ町PRレディー  
 (石橋宏美さん:左、松永登志子さん:右)